

新除草・調節剤

ザイトロンアミン液剤 トリクロピル除草剤

(取扱メーカー) **ダウケミカル日本株式会社**
 石原産業株式会社
 日産化学工業株式会社
 保土谷化学工業株式会社

対象作物：日本芝(こうらいしば・のしば)。

成分・作用特性：本剤は、トリエチルアンモニウム 3,5,6-トリクロロ-2-ピリジルオキシセタート……44%を有効成分とする水溶性液剤である。

本剤は広葉雑草木、とくにマメ科植物に強い除草効果を示すホルモン型除草剤である。本剤は雑草木の茎葉から吸収され、雑草木体内を移行し、除草効果を発揮するものである。したがって、土壌処理効果はほとんど期待できない。散布された雑草木は、散布後1日目ごろから捻転などの現象がみられ、その後徐々に葉先から枯死して、10～15日後に除草効果が完成する。

毒性：急性経口毒性は、ラット雄で1350mg/kgのLD₅₀値を示し、急性毒性コイのTL_m48時間が40ppmを示しA類である。

使用方法：本剤は、畑地一年生広葉雑草およびクローバー・チドメグサなどの多年生広葉雑草に対し、これらの雑草生育期に10アール当り、400～600mlを150～200lの水に希釈し、展着剤を加用して、雑草全面に散布する。

使用上の注意：散布の際に周辺の草花・植木等に飛散しないようにとくに注意する。ターフを形成した日本芝に使用し、洋芝には使用しない。雑草発生前～発生初期の処理は効果が劣る

ので、雑草が生え揃った後の雑草生育期に散布する。カタバミの多い所では所定範囲の多めの薬量で使用する。イネ科雑草・オオバコ・スイバ等の優占する所では、使用をさける。黄変等の薬害は通常回復するが、夏期高温時や芝の生育が劣っている場合には、薬量を減ずる。散布後の降雨は効果を減ずるので、降雨の予想される場合は散布をさける。降雨後に散布する場合には、雑草が乾いてから散布する。散布器具や薬液の調整に使用した容器は、使用后直ちに水でよく洗うこと。

安全使用上の注意：原液が眼に入った場合には、刺激が強いので直ちに流水で15分以上洗眼し、医師の手当を受ける。直接、皮ふに触れると、人によりかぶれを生ずることがあるので注意する。作業中は、マスク・手袋・保護メガネなどをして、薬剤を吸いこんだり、多量に浴びたり、眼に入ったりしないように注意し、作業後は顔・手・足等の皮ふの露出部を石けんでよく洗うこと。なお、本薬剤を貯蔵する場合は密栓して、食品と区別して、冷暗所に貯蔵して下さい。

本誌掲載原稿の募集

本誌を愛読されている皆様より、原稿を募集しておりますので、ご寄稿下さい。内容は、除草剤・生育調節剤に関する記事であればよく、400字詰原稿用紙で20～30枚位、図・写真の挿入も可。原稿料は、当協会の規程によりお支払いいたします。